

平成 27 年度  
島根大学大学院人文社会科学研究科修士課程  
言語・社会文化専攻 言語文化コース  
(第 2 次) 入試問題

【 英語学 】

(一般入試 A)

注 意

- 1 問題紙 6 ページ、解答用紙 3 枚である。
- 2 指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 解答は、解答用紙に清書すること。
- 4 問題紙は、持ち帰ること。

【1】 次の英文を読み、設問に答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(Jaworska, E. (1986) "Prepositional phrases as subjects and objects," *Journal of Linguistics* 22 より (一部改変あり))

注： copular 繁辞 (be 動詞のこと), “raising-to-object” sentences (consider *him* to be a genius のように、埋め込み節の主語が主節の目的語の位置に「繰り上がる」ように見える構文のこと),

- (I) 例文(1)～(4) は、 どういう点で特異であると言えるか、 本文の内容に即して説明しなさい。
- (II) 筆者は、 Stowell (1981) の提案する制約には問題があると指摘するが、 どのような問題があるのか。 本文の例に言及しながら具体的に説明しなさい。
- (III) 例 (8a) と (8b) の容認度の違いを生む原因は何か、 本文の内容に即して説明しなさい。
- (IV) 例 (12a) と (12b) の容認度の違いを生む原因は何か、 本文の内容に即して説明しなさい。
- (V) 例 (14a-c) は、他の例とは違うタイプの PP が現れているにも関わらず容認される。その原因は何か、他の例とそれに対する筆者の説明をふまえながら、あなた自身の説明を与えなさい。

【2】 次の文章を読み、設問に答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(安藤貞雄・澤田治美(編)『英語学入門』より(一部改変あり))

- (I) 「方向づけのメタファー」を用いた日本語の例を 5 つ挙げなさい。例(1)-(5)にならい、  
ポイントとなる語には下線などの印をつけて示すこと。
- (II) 最後の段落に示された 4 種のメタファーから 1 つを選び、その例を 5 つ挙げなさい。  
例は和文・英文のいずれでもよい。

【3】 次のリストから 2つを選択し、それぞれの違いを、具体例を挙げて説明しなさい。  
なお、解答は順不同でよい。

- (1) 母音 (vowel), 子音 (consonant)
- (2) 音素 (phoneme), 異音 (allophone)
- (3) 屈折形態素 (inflectional morpheme), 派生形態素 (derivational morpheme)
- (4) 意味役割 (semantic role), 文法役割 (grammatical role)
- (5) 時制 (tense), 相 (aspect)
- (6) 能動態 (active voice), 受動態 (passive voice)
- (7) 多義性 (polysemy), 同音異義性 (homonymy)
- (8) 包括関係 (hyponymy), 部分・全体関係 (meronymy)
- (9) プロファイル (profile), ベース (base)
- (10) 叙述文 (constative), 遂行文 (performative)